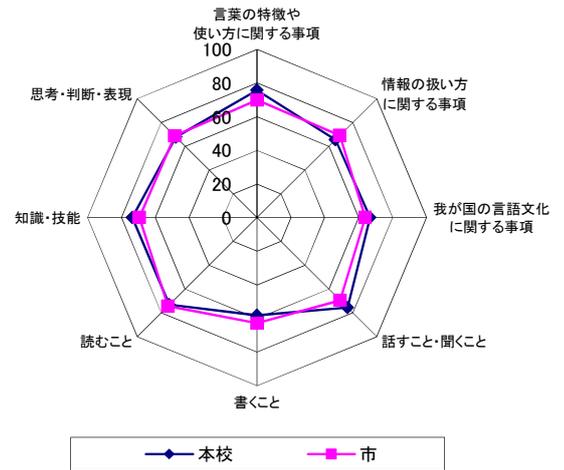


# 宇都宮市立昭和小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	75.8	69.9	72.3
	情報の扱い方に関する事項	65.6	69.2	73.0
	我が国の言語文化に関する事項	66.7	63.8	66.0
	話すこと・聞くこと	75.6	69.5	71.5
	書くこと	58.1	62.8	67.1
	読むこと	73.3	74.4	73.7
観点別	知識・技能	73.7	69.4	71.9
	思考・判断・表現	67.7	68.8	70.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

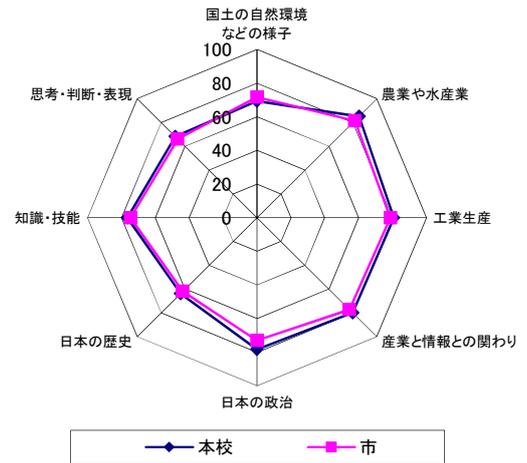
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は、75.8%と市の平均を上回っている。</li> <li>○「三字の熟語の成り立ちについて理解している」をねらいとした問題では、84.4%という高い正答率で、市の平均を20ポイント近く上回った。</li> <li>●文と文との接続の関係を理解する問題では市の平均正答率は上回っているが、全国平均よりはやや下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</li> <li>○普段からの漢字の学習を習慣的に行うとともに、作文等で日常的に漢字を使う機会を増やしていく。</li> <li>●文章を書く活動の中で、話し言葉と書き言葉の違いを意識しながら、簡潔明瞭な文を書くことができるように指導する。また適切な接続語を用いることができるような指導の工夫をする。</li> </ul>
情報の扱い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は、65.6%と市の平均を下回っている。</li> <li>○「情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理している」をねらいとした問題では、86.7%と高い正答率で、市の平均を上回った。</li> <li>●「情報と情報との関係について理解し、目的に応じて、文章を簡単に書いている」をねらいとした問題では、44.4%と市の平均を下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理する力はおおむね身に付いているが、目的に応じて文章を簡単に書く力を中心に学習する必要がある。</li> <li>●目的をもって文章を簡単に書く機会を設けることで、情報を読み取り、目的に合わせて自分の考えを書けるようにする。</li> </ul>
我が国の言語文化に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は、66.7%と市の平均を上回っている。</li> <li>○「語句の由来に関心をもち、和語、漢語、外来語について理解している」をねらいとした問題では、66.7%と市の平均を約3ポイント上回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○和語、漢語、外来語の区別についてはおおむね身に付いている。引き続き言語学習の際に、和語、漢語、外来語の区別や、音読み、訓読みについても復習する機会を設ける。</li> </ul>
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は、75.6%と市の平均を上回っている。</li> <li>○インタビューの内容を聞き取る問題では、どの小問も市の平均を上回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○話のテーマに対してグループで話し合う場を継続して設けるとともに、相手の意見を正しく理解し、自分の言葉で表現し直す活動を取り入れることで、論理的な思考を育みたい。</li> </ul>
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は、58.1%と市の平均を上回っている。</li> <li>○文章を書く問題では、指定された長さで文章を書くことができおり、自分の意見とその理由を明確にして書けている。</li> <li>●ポスターを作る問題では、44.4%と市の平均を大きく下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○資料の活用や事実関係を文章に書くことはおおむね身に付いているが、表やグラフを用いて、自分の考えが伝わるように書く力について学習する必要がある。</li> <li>●自分の考えや意見について、表やグラフを用いて根拠に基づいて説明するような学習を重点的に行う。</li> </ul>
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は、73.3%と市の平均をやや下回っている。</li> <li>○説明文の内容を読み取る問題では、市の平均を上回っている。</li> <li>●物語文の内容を読み取る問題では、市の平均を下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○物語全体を見通すことができるようにするために、情景描写から心情を表す叙述を抜き出したり、なぜそのような心情だと考えたのか、根拠となる描写を探したりする学習に取り組めるようにする。</li> <li>●国語の時間だけでなく、教科横断的に分からない語句を調べる習慣を付ける。</li> </ul>

# 宇都宮市立昭和小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	69.3	71.6	67.5
	農業や水産業	85.2	81.5	82.1
	工業生産	80.7	78.7	70.8
	産業と情報との関わり	80.0	77.2	68.2
	日本の政治	78.3	73.1	77.9
	日本の歴史	63.9	62.0	65.8
観点別	知識・技能	76.4	74.6	74.5
	思考・判断・表現	68.2	66.2	65.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

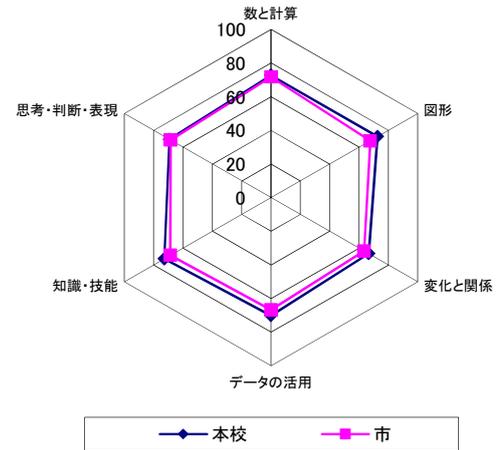
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は69.3%で市の平均を下回っている。</li> <li>○資料に着目して森林の働きを捉え、表現する問題では、市の平均を2.9%上回っている。</li> <li>●日本の主な地形の名称と位置の理解をもとに地図を読み取る問題では、市の平均を6ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内の地理についての理解を深めるため、白地図やICT教材等を活用して定着を図る。</li> <li>いろいろな国への関心を深め、地図上での国の場所や大陸などの名称について、視覚的資料を取り入れるなど、継続して学習できる環境を与えたい。</li> </ul>
農業や水産業	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は85.2%で市の平均を上回っている。</li> <li>○カントリーエレベーターについての理解を問う問題では、正答率が91.1%と高く、市の平均を8.6ポイント上回っている。</li> <li>●都道府県の位置と農産物の産地の理解をもとに適切な地図を判断する問題では、市の平均を4ポイント下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>都道府県の位置や名称については、第4学年で都道府県の学習を行っているが、それだけでは不十分だと考える。日本の地理や産業等の学習を進めるにあたって、適宜地図で確認したり、AIDリルを活用して繰り返し復習したりする機会を設け、理解の定着を図る。</li> </ul>
工業生産	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は80.7%と、市の平均を上回っている。</li> <li>○日本の輸出品の資料を読み取る問題では、正答率が88.9%で市の平均を7.4ポイント上回っている。</li> <li>●自動車工場の作業工程についての問題では、正答率が88.9%と市の平均を3.7ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動車の生産工程や運搬などの様子をデジタル教材を活用して理解を深めてきた。知識の定着を図るため、今後も実際に見学に行ったり、デジタル教材を活用したりするなど、興味・関心を高める授業展開の工夫をしていく。</li> </ul>
産業と情報との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は80%で、市の平均を上回っている。</li> <li>○メディアの特徴の理解を問う問題では、正答率が93.3%で市の平均を2.4ポイント上回っている。</li> <li>●資料に着目して、コンビニエンスストアの発注システムについて捉え、判断する問題では、正答率が66.7%と市の平均を4.1ポイント上回ったが、60%台とあまり高い正答率とはいえない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料から得られる情報を正しく読み取り、判断する力を身に付けられるように、自分たちの生活と情報の関わりについて意識付けを図れるよう、授業の中で指導していく。</li> </ul>
日本の政治	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は78.3%で、市の平均を上回っている。</li> <li>○日本国憲法についての理解を問う問題では、市の平均を10.1ポイント上回っている。</li> <li>●図に着目して、国民による政治の仕組みを判断する問題では、市の平均を10ポイント上回っているが、正答率が60%と若干低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業において言語活動に力を入れ、図や資料から事実を正確に読み取る力を育成していく。</li> </ul>
日本の歴史	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均正答率は63.9%で、市の平均を上回っている。</li> <li>○鎌倉幕府が置かれた場所の資料を読み取る問題では、市の平均を15.2ポイント上回っている。</li> <li>●大和朝廷についての理解を問う問題では、市の平均を6.9ポイント下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一台端末にある社会科のデジタル教科書やAIDリルを活用し、繰り返し知識の定着を図る。</li> <li>時代ごとに学習した内容を比較したり関連付けたりしながら、歴史について多面的な見方ができるように授業の展開を工夫する。</li> </ul>

# 宇都宮市立昭和小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	72.7	71.8	76.2
	図形	72.6	67.7	67.8
	変化と関係	66.7	63.4	62.7
	データの活用	70.2	66.7	61.5
観点別	知識・技能	72.7	68.6	70.7
	思考・判断・表現	69.3	68.5	66.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

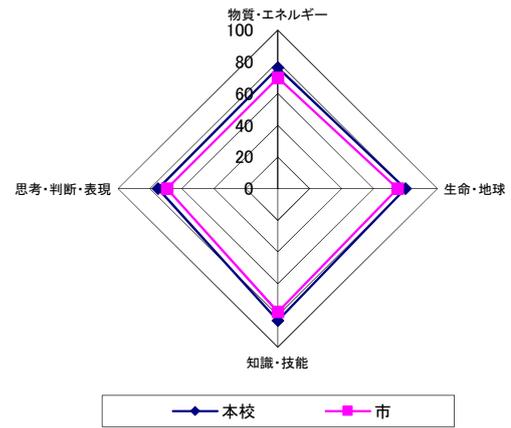
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市の平均をやや上回っている。</li> <li>○2つの文字を使って表された式について、一方の文字の値から他方の文字の値を求める問題では、市の正答率を8.5ポイント上回っている。</li> <li>●数の計算の問題では、ほとんどの問題で、市の正答率を上回っているが、式が表す場面を選ぶ問題では、市の平均を下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題の内容をイメージできるように、問題を図式化したり数直線をかいたりするなどの活動に、日々の授業で取り組む。</li> <li>・小数や分数の四則計算は、少人数指導やドリル等での繰り返し学習で、技能が着実に身に付いてきている。さらに計算の技能を高められるように、AIドリルなどを活用し、繰り返し学習することで、定着を図る。</li> </ul>
図形	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市の平均をやや上回っている。</li> <li>○角の大きさを求める問題では、市の平均を15ポイント以上上回っている。また、他の図形の問題でも、市の平均を上回っている。</li> <li>●半円と四分の一の円を組み合わせてできる図形の求め方を説明する問題では、市の平均を上回ったが、正答率は、34.9パーセントと低かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図形の公式を用いて、面積や体積を求めることはできるが、求め方を説明することを苦手とする児童が多い。そのために、既習学習を生かして考えたり、自分の考えを伝えたりする活動を取り入れていく。</li> <li>・授業の中で、図形を構成したり分解したりして操作する活動を多く取り入れて学習を進めることで、図形の見方を深め、実感できるように工夫していく。</li> </ul>
変化と関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市の平均を上回っている。</li> <li>○基準量と比較量から割合を求める問題では、市の平均を8ポイントを上回っている。</li> <li>●図から面積と数の割合を求め、考察する問題では、平均正答率は79.1%と高いが、市の平均を下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・割合を求める問題では、キーワードを読み取ったり、図や表を用いたりして、基準量と比較量の関係を理解できるように指導する。</li> <li>・朝の学習や単元のまとめの際に、多様な問題に取り組むことで思考力を育てていく。</li> </ul>
データの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市の平均を上回っている。</li> <li>○ドットプロットから中央値を求める問題では、市の平均を12ポイント上回っている。</li> <li>●帯グラフを読み取って、説明する問題の平均正答率は30.2パーセントと市の平均を下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1めもりの表す大きさに注目させてグラフを読み取ったり、設問の内容に合った正しい式を立式したりする活動に取り組むとともに、社会や総合的な学習など、他教科とも関連してデータを考察する力を育てていく。</li> </ul>

# 宇都宮市立昭和小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	76.2	69.9	67.8
	生命・地球	79.8	75.1	73.7
観点別	知識・技能	83.3	77.8	78.4
	思考・判断・表現	74.9	69.4	66.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校の平均正答率は、76.2%と市の平均を大きく上回っている。</li> <li>○「実験結果から、条件を変えたふりがが1往復する時間を推測することができる」をねらいとした問題では、79.1%と市の平均を大きく上回っている。</li> <li>●「電流の強さと電磁石のはたらきの関係を調べるためには、どの実験を比較すればよいか指摘できる」をねらいとした問題では、正答率は55.8%と低く、市の平均をやや下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題を解決するために必要な条件を正しく選択し、解決への道筋を考える力の育成を図るために、実験方法や結果を相互に検討する場を十分もてるよう、授業展開を工夫していく。</li> <li>実験の道具の使い方や流れ、方法などを繰り返し確認しながら実験する。</li> </ul>
生命・地球	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校の平均正答率は、79.8%と市の平均を上回っている。</li> <li>○くきを縦に切ったときの断面の水の通り道のような理解を問う問題では、95.3%高い正答率で、市の平均を大きく上回っている。</li> <li>●生物と環境の食物連鎖についての理解を問う問題では、正答率が81.4%と市の平均を8.2ポイント下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「植物の発芽と成長」において、知識を十分身に付けられるようデジタル教材等を活用し、理解を深められるようにする。</li> <li>今後も児童が興味をもてるような授業の展開を図るとともに、課題に対する予想、実験、結果、考察というそれぞれの活動で主体的に考えをもてるよう、言語活動を取り入れることで、科学的思考を養っていく。</li> <li>授業において、AIDリルを活用しながら学習内容を確認し、基本的な知識の定着を図っていく。</li> </ul>

## 宇都宮市立昭和小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・児童自ら考え分かりやすく表現できる児童の育成	自分の考えを伝える際、その根拠となる事項や情報を明確にすることを意識的に指導する。	「自分の考えを、根拠をあげながら話すことができる」に対する肯定的回答は3年生が76.2%、4年生が68%、5年生が68%、6年生が75.5%で、平均すると市の平均を4.3ポイント上回った。
・主体的な家庭学習の習慣作り	年2回の学力アップ月間を設け、家庭学習の充実を含めた啓発資料などを作成し、家庭にも協力を呼びかける。	「宿題をやり期限までに提出している」に対する肯定的回答は91.8%で市の平均と同程度となった。学年によって差が見られる。また、「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる」に対する肯定的回答は、62.6%で市の平均より3.2ポイント低い。「保護者の学習への関心や関わり」に対する肯定的回答は89.3%と市の平均より2.4ポイント高い。

### ★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

各学年とも、意欲的に学習に取り組み、学習のねらいを達成するために協働的な学習に意欲的に取り組む様子がうかがえる。家庭学習においては、取組の時間や内容に個人差が見られるので、学力アップ月間をきっかけとして年間を通し意欲的に取り組めるよう、家庭とも連携しながら指導の充実を図っていく。国・県・市の結果を踏まえ、表やグラフなどの資料を用いて、自分の考えが伝わるように根拠をあげながら文章を書く活動を充実させていく。